アニコム どうぶつNEWS
2023年5月号
ねこ に多い病気、そこが知りたい!

寄生虫症って?

体内や体の表面に寄生虫がすみつき、下痢や皮膚トラブルなどを起こす病気。

寄生虫には、猫の体内をすみかとする「内部寄生虫」と、皮膚や耳など体の表面にすみつく「外部寄生虫」があります。猫は内部寄生虫の割合が高く、とくに回虫は外猫の20%ほどが感染しているという報告も。また、外部寄生虫であるノミは、猫の体表を好んで寄生します。

主な症状

- 軟便、下痢になる
- ウンチに虫が混じって排泄される
- 体をしきりにかく、毛をカチカチと噛む
- 発育不良や体重減少(子猫の場合)など

症状は寄生虫の種類によって異なりますが、内部寄生虫の場合、下痢などウンチに現れることが多いでしょう。また、外部寄生虫はかゆみなどが生じるので、体をかき壊して皮膚トラブルにつながるケースも。
子猫やシニア猫など免疫力の低い猫は、大量の寄生虫に感染すると重篤な症状を引き起こすため、注意が必要です。

原因

たとえばノミは、猫同士が接触したときだけではなく、飼い主さんの服や靴などに付いて外から室内に持ち込まれて、感染することがあります。さらにノミや蚊といった中間宿主(一時的に寄生する生物)を介して、条虫やフィラリアといった内部寄生虫が猫の体にすみつくケースも。

予防法

室内飼いであっても、寄生虫の感染予防には動物病院で処方される、寄生予防・駆虫薬を定期的に投与することが効果的です。新しく猫を迎える際は動物病院で寄生虫の有無を調べる検査を受けることも重要です。
また、猫トイレなどの環境に回虫の卵が残っていると、感染する可能性があるため、トイレはこまめに排泄物を取り除き、トイレ容器を薄めた中性洗剤で丸洗い、天日干しするなどして、清潔に保つように心がけましょう。

治療法

寄生虫の有無を調べる検査をし、見つかった際は駆虫薬などの投与をします。また、内部寄生虫の一種で、猫の体内で増殖していくのが特徴の「原虫類」などの場合は肉眼では見えないため、顕微鏡で確認をします。そのため原因の特定までに厳密な検査が必要で、駆虫に時間がかかることもあります。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと
2号(2ケ月分)無料!!

発行元:アニコム損害保険株式会社